

令和 3 年 9 月 定例会 一般質問

通告 1

質問 白樺並木の今後について

答弁 伐採後に捕植を行い並木の保全に努めてまいります

3 番 阿部 隆弘 議員

【質問：阿部 隆弘 議員】

3 番、阿部隆弘でございます。本町零号に沿って植えられております白樺並木の今後についてお伺いいたします。

中標津町の木、白樺を象徴する白樺並木は、中標津市街地発展の大きなきっかけとなった農事試験場建設の際に、当時の初代支場長の発案により場内道路の両側に植えられたものと伝えられております。その後、町道へ移管され、道内でも貴重な白樺並木でもあり、町民にとってもなじみのあるものでございます。

白樺も樹齢 90 年以上が経過し枯れているもの、傷んでいるものが見受けられ、ピンク色のテープが付けられていることは道路の安全管理上のことと理解をしております。

しかし、その並木は昭和初期の開拓景観を示すものとして、都市マス、景観計画の観点からも重要性が示されており、現在教育委員会で取り組まれております「文化財保存活用地域計画」においても、文化財としての価値があることから、町の「おたから候補」として挙げられていると聞いております。本来、白樺の寿命は 100 年満たないことから、そう遠くない将来には伐採してしまわなければならないことは確かなことでございます。昭和初期の開拓景観を残していきたいという思いもわかりますが、寿命のあるものですから難しいことは確かなことであります。

町道の安全管理上、危険な白樺を伐採することも理解できますが、このままでは消えてなくなってしまう。今後、どのようにこの白樺並木を守り伝えていくのか、町長の考えをお聞かせください。

【答弁：町長】

阿部議員御質問の白樺並木の今後について御答弁申し上げます。

中標津のシンボルとして町民に親しまれている白樺並木につきましては、御質問にも



ありますように、旧北海道農事試験場根室支場が設置されたときに植えられたもので樹齢 94 年となります。白樺は樹木としては寿命が短く 100 年程度とのことから、並木のほとんどが間もなく寿命を迎えることになります。並木を通る道路は町道として管理しており、枝落ちや倒木による通行者の被害が発生しないよう安全管理に努めているところでございます。

このような中、今年 4 月に伝成館付近の老木が 1 本倒木し、幸い事故には至りませんでしたが、再発防止のため並木全てを樹木匠に診察していただいたところ、白樺以外の木も含め 35 本は伐採が必要であると診断されました。道路管理として、通行者の安全を確保する上で危険を回避するため伐採することは業務として当然のことですが、一方で伝成館を含む酪農試験場圃場とこの白樺並木は、一体として中標津町の発展の礎となったもので、歴史・文化を学ぶ地域学習の場や交流人口・観光の拠点となる重要な場所であると考えております。

今後の白樺並木のあり方につきましては、中標津町の貴重な遺産として守り伝えていくことが重要であると認識しておりまして、既に中標津町都市計画マスタープラン並びに中標津町景観計画において、白樺並木の重要性と保全について協働で推進すると明記されております。また、現在策定中の「中標津町文化財保存活用地域計画」においても価値づけを検討されていると聞いております。

このようなことから、計画的に枝払い、伐採など道路管理として安全対策をしっかりとした上で、伐採後に捕植を行い並木の保全に努めるとともに、町の財産として具体的な並木の保全活動をどのように推進していくのかについて、行政だけではなく、町民と一緒に取り組んでいくことが大切であると考えておりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。